**ハンドマイク街頭演説原稿例　安倍首相辞意表明**

二〇二〇年八月三十日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日は、この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　先日、安倍首相が記者会見し、持病が再発し、職務を続けることが難しくなったため、首相職をしりぞくと表明しました。病気による辞任はやむを得ないことであり、安倍首相はじっくりと治療され、健康を回復されるよう願いたいと思います。

　一方、新型コロナウイルス感染の拡大で、国民は重大な危機に直面しており、国政に一刻の停滞もあってはなりません。すみやかに臨時国会を開いて次の首相を選出し、新首相のもとでしっかりと国会審議をおこない、コロナ対策など重要課題を議論することが必要だと、日本共産党は考えます。

　みなさん、安倍政権の終わりにあたって、七年八カ月にわたる「安倍政治」がどういうものであったか、改めて問われるのではないでしょうか。

　安倍内閣は二〇一四年には歴代政権の憲法解釈を強引に変更して、集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行い、翌一五年には安保法制＝戦争法を強行採決で成立させました。十七年に安倍首相は憲法九条に自衛隊を書き込む改憲案を打ち出し、任期中の改憲に強い執念を示しました。しかし、改憲は多くの国民の願いでしょうか。安倍首相は辞任表明の会見で、憲法改定への国民世論が広がらなかったと発言しました。国民のたたかいによって、憲法改定ができなかったと認めた発言です。安倍首相は次の政権のもとでの改憲に期待を示しましたが、九条改憲を許さない国民の声に背を向けることは許されないのではないでしょうか。

　また、「森友」、「加計」、「桜を見る会」の疑惑をはじめとする「国政私物化」や、行政文書の改ざん・隠ぺいについても、安倍政権は世論の厳しい批判にさらされました。記者会見で安倍首相は「私物化したつもりは全くない」と強調しましたが、一連の疑惑をあいまいにすることはできません。首相退任後も、引き続き真相究明が必要ではないでしょうか。

　安倍首相が売り物にした経済政策「アベノミクス」はどうだったでしょうか。貧困と格差を広げ、二度の消費税増税は経済に深刻な打撃を与えました。コロナ感染が追い打ちをかけている日本経済の苦境から抜け出す政策転換は、極めて切実な課題です。

　みなさん、安倍首相の辞任によって、日本の政治に新しい激動的な時代が始まったことは間違いありません。多くの国民が求めているのは、自民党政治を大本から切り替える、新しい政治ではないでしょうか。日本共産党はコロナ禍から国民を守るためにさらに力を尽くすとともに、安倍政権と対決するたたかいで発展した市民と野党の共闘を大きく前進させ、日本の未来を切り開くために引き続き頑張ります。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）